非核・いしかわ

事務局／石川民医連労働組合気付
〒920-0848 金沢市京町28-8　℡076-251-0014　Fax 076-251-3930
ゆうちょ口座 00760-0-15689　年会費3000円（全国紙代含む）

2018年11月20日　月刊第244号　発行／非核の政府を求める石川の会

非核五項目
① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

核兵器禁止条約の調印は69か国、批准は19か国（11月20日現在）

1面　日本被団協東海・北陸ブロック講習会 日本被団協の運動の歴史　岩佐幹三
2面　「核のない世界」めざして　藤森俊希
4面　朝鮮半島の非核化と平和への道筋 ―日米核同盟と揺れる憲法　太田昌克
6面　玉兎ヶ丘・平和の子ら像の標識を ―金沢市緑と花の課に要望　神田順一
大切な人権　安田清平
7面　自分と周りの命を大切に！ ―受動喫煙防止教室を続ける　安田幸子
〈独標〉星たちの動き　尾川義雄
8面　石川の地域点描 シリーズ　中西　優
絵手紙コーナー　竹味恭子

講演要旨

日本被団協の運動の歴史

日本被団協顧問・石川友の会顧問
岩佐幹三

駅到着後、5分かけて改札に現れた気迫の人、岩佐幹三さん

県内の支援者もかけつけて

一一月四日～五日、日本被団協（日本原水爆被害者団体協議会の略）中央相談所主催の東海北陸ブロック相談事業講習会が山代温泉に被爆者七三名が参加して開催されました。今回は県内支援者がスタッフとして応援に駆けつけ、合計一〇〇名近い参加者になったことが特徴です。四つの講演、活動交流が主な日程でしたが、そのうち岩佐幹三さんの講演を中心に紹介します。

被爆者として生きた証し
核廃絶を見届けるまで

金沢大学名誉教授で日本被団協の代表委員もつとめた岩佐幹三さんの講演。岩佐さんは「軍国少年があの日から原爆孤児になった」と語り始めました。原爆投下時、迫る炎の中でお母さんを「見殺しにした」という強烈な体験を踏まえて、被爆者としての人生の歩みを振り返るお話でした。

「九〇年の人生で三度だけ泣いた」と、母の死を叔母に伝えた時、苦学の末に研究者の道を歩んでいた金沢で恩師の誘いを蹴って石川に残った時、そして映画「火垂るの墓」を見て号泣したと、死に行く幼い妹に自分らの姿を映したのだろうと。被爆者運動とともに歩んだ岩佐さんの「心の叫び」を聞いたと感じました。

断られることも度々あるが、今、ヒバクシャ国際署名を集めているのは、「あなた方はこんなひどい目に遭っていいんですか、人間の命の問題ですよと訴えていかなければならない。これが草の根の運動だ」と熱く語られました。

花鳥風月

今月三日から四日にかけて「第二九回反核医師のつどい」が長崎で開催された。全国からの医師・医学者、海外からもICAN創設者の一人であるティルマン・ラフ氏らが参加し、盛会であった▼考えさせられたのがRECNA（長崎大学核兵器廃絶研究センター）の中村桂子准教授の発言だ。氏が話すには、長崎大学の授業の中で、学生に「核兵器禁止条約を知っていますか？」と尋ねると、知っている学生は大体三～四割だそうだ。良くも悪くも時代は流れる。長崎で生まれ育ったからといって〝ナガサキ〟の被爆の実相と歴史、平和をめぐる情勢すべてを知っているわけではない。当然ながら、長崎と〝ナガサキ〟は単純に一緒にはできないし、責められるものではない▼次世代に平和教育を広げるなかで、これは嘆くことだろうか。いや、そうではない。真っさらだからこそ、考えられることがある。大切なのは、被爆と平和の問題を自らにどうやって落とし込むか、そこから何を想像するかではないか▼〝寄り添う〟〝連帯する〟は欠かせない考え方ではあるが、もう一歩踏み出し、外部が、次世代が、当事者の気持ちを尊重しながらも逆に引っ張るぐらいの気概が求められてきているのかもしれない。（O）

日程の最後にも特別発言を求め、「八二年の国連軍縮特別総会でマンハッタン島が百万人デモで埋まっても、レーガン・ゴルバチョフ会談の緊張緩和で反核の火が消されて世界の大勢は変わらなかったではないか、核禁止条約締結で浮かれることなく」、さらに「政府の有識者というものは、交渉に当たっている被爆者を金欲しさ集団と呼ぶような輩だ。我々の闘いで勝ち取るしかない」と、全体を締めくくる発言となりました。

その他の企画として

「夕食懇談会」では地元石川のフォークグループ「でえげっさあ」のミニコンサートをアトラクションとして組み込んで和やかに交流しました。

二日目は、被爆者中央相談所相談員の原玲子さんのお話。今もっとも注目の介護問題、介護手当の問題を取り上げ、一人ぼっちにならず何でも話せる人と話せる場所を作りましょうと話されました。木戸李市事務局長の被団協の運動についての話の後、各県報告をしました。講習会中にブロックの二世交流会を開催して、この一年間で愛知と富山が会を結成し、七県のうち五県まで前進したことを確認しました。

（池田治夫・石川県原爆被災者友の会事務局長）

◇講演要旨◇

「核兵器のない世界」めざして

日本被団協事務局次長　藤森俊希

講師の藤森俊希さん

核兵器禁止条約のあらまし

二〇一七年七月七日、国連で採択された核兵器禁止条約は前文と本文二〇条で成り立っている。前文の冒頭には「**核兵器の使用がもたらす壊滅的な人道上の帰結を深く憂慮し、その結果として核兵器が完全に廃絶されることが必要**であり、これがいかなる場合にも核兵器が決して再び使用されないことを保証する唯一の方法であり続けている」と、核兵器を禁止から完全に廃絶することが明記されている。

前文の一一段目では「**一九四六年一月一四日に採択された国際連合第一号決議**及びその後の核兵器の廃絶を求める諸決議を想起し」と記載されていることも素晴らしい。広島・長崎への投下から半年のうちに国際連合が結成され、**最初の決議案が「核兵器の廃絶」**だった。この国連決議から七二年経った二〇一七年七月に核兵器禁止条約が採択された意義は大きい。

前文の最後、二二段目に「国際連合、国際赤十字・赤新月運動、その他の国際的機関及び地域的機関、非政府組織、宗教指導者、国会議員、学術研究者、及び**ヒバクシャが行っている努力**を認識し」と、核兵器の廃絶のために努力してきた被爆者の運動が盛り込まれており、大変有意義な条約である。

本文第一条では、核兵器の開発、実験、生産、製造、取得、保有、貯蔵を禁止しており、さらにホワイト議長が同年五月に発表した条約素案になかった項目「核兵器またはその他の核爆発装置を使用し、またはその使用の**威嚇をすること**」が交渉会議の議論により**追加された**ことも大変重要である。

この条約は、五〇番目の批准書が国連事務総長に寄託された後、九〇日で発効となる（第一五条：効力発生）。二〇一七年九月二〇日の署名・批准の受付開始から現在まで国連に批准書を提出したのは一九か国である。年月を経るごとに批准国はふえているが、唯一の戦争被爆国の日本がなぜ核兵器禁止条約の発効のために力を発揮しないのか。私たち被爆者は一日も早い批准書の提出を求めて外務省に度々要請している。第四条（核兵器の全面的廃絶にむけて）、第六条（被害者に対する援助及び環境の回復）など同条約の重要な条文は繰り返し読んでいただきたい。

「ふたたび被爆者をつくるな」

一九四五年八月、広島・長崎への原爆投下直後に連合国捕虜の収容状況の確認のため東京に着任したマルセル・ジュノー博士（赤十字国際委員会駐日首席代表）が要請した医薬品は、九月にGHQから広島に送られた医薬品は一五トンの一回のみ（一五トンは一万人の一ヶ月分）。同年八月三〇日にマッカーサー連合国総司令部（GHQ）最高司令官が着任し、九月一九日、原爆被害につきラジオ・新聞・雑誌などで報道することを禁止するGHQプレスコードを指令した。被爆者は最も救援が必要なときに医薬品を断ち切られ、報道管制が敷かれて一〇

年余も見捨てられた。

被爆者が起ち上がるきっかけになったのは一九五四年三月一日、アメリカがマーシャル諸島、ビキニ環礁で水爆実験を行ない、マグロ漁船第五福竜丸が「死の灰」を浴びたこと。国内外で原水爆禁止の運動が広がり、一九五五年八月六日～八日、広島で第一回原水爆禁止世界大会が開かれ、この大会では三二一六万七〇七〇筆の原水爆禁止署名が集まったことが報告された。翌年八月九日～一一日、長崎で第二回原水爆禁止世界大会が開かれ、この大会期間中、一〇日に日本被団協が結成された。

日本被団協の結成大会宣言「世界への挨拶」には、「かくて私たちは**自らを救う**とともに、**私たちの体験をとおして人類の危機を救おう**という決意を誓い合ったのであります」と記されている。**自らを救う**とは、被爆後、GHQによって、原爆の被害について、ラジオ、新聞、雑誌などで明らかにすることさえ封じられたなかで、見捨てられた自らの体験を明らかにし、自らを救う高邁な決意である。また**私たちの体験をとおして人類の危機を救おう**とは、原爆によって人類史上なかった凄惨な被害を体験しながら、報復ではなく、「ふたたび被爆者をつくるな」という、まさに「人類の危機を救う」立場を表明したものである。この二つの言葉は今も生きていると信じ、私たち被爆者は活動を続けている。

世界が手をつなぎ非核の地球へ

二〇一〇年NPT再検討会議の直前、同年四月二〇日にヤコブ・ケレンベルガー赤十字国際委員会（ICRC）総裁が「今こそ世界の国々が核兵器の時代に終止符を」と声明を出した。この訴えが契機となり、二〇一〇年NPT再検討会議では大きな前進があり、核兵器の非人道性に焦点を当てた国際世論の潮流が生まれた。特に二〇一三年三月のノルウェー・オスロ、二〇一四年二月のメキシコ・ナジャリット、同年一二月のオーストリア・ウィーンで開かれた核兵器の人道上の影響に関する国際会議が大きな役割を果たした。メキシコ・ナジャリットではメキシコ大使の提案により、五人の被爆者が被爆証言したことも重要である。国際会議が究明した結論は次の四項目である。**①核兵器の被害は国境を越えて広がる、②どの国、国際機関とも救援の術がない、③核兵器不使用こそ人類の利益、④核兵器の不使用を保証できるのは廃絶以外にありえない**。このような国際会議の積み上げが二〇一七年三月及び七月の国連交渉会議での核兵器禁止条約の採決に繋がった。

日本被団協結成六〇年の大事業として二〇一六年四月に開始した「ヒバクシャ国際署名」は、すべての国が核兵器を禁止し廃絶する条約を締結することを呼びかけ、二〇二〇年に開かれる国連総会まで毎年国際署名を届けることにしている。署名目標は数億筆であり、現在までに八三〇万筆を国連に提出している。

核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を訴え続けてきた平和首長会議（日本の全市区町村の九四・四％が加盟）は、二〇一六年一一月に千葉県佐倉市で開いた第六回平和首長会議国内加盟都市会議総会で「ヒバクシャ国際署名」に賛同・協力することを了承した。私が住んでいる長野県では七七全市町村長が平和首長会議に加盟しており、「ヒバクシャ国際署名」も七七市町村長全員が賛同署名した。阿部守一県知事も署名しており、二〇一八年三月に長野県議会は「核兵器禁止条約への署名・批准を政府に求める意見書」を採択し、首相、衆参両院議長、外相等に要請している。このような動きをぜひ全都道府県に広げていただきたい。

二〇一七年ノーベル平和賞は、核兵器の使用が人道上破壊的な結果をもたらすことへの関心を高め、核兵器禁止条約の制定に向け革新的な努力を尽くした核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）が受賞した。

二〇一七年の核兵器禁止条約の採択では、交渉会議議長のエレイン・ホワイトさん、国連上級代表の中満泉さん、ノーベル平和賞では、ノルウェー・ノーベル委員会委員長のベリット・ライシュ・アンデシャンさん、ICAN事務局長のベアトリス・フィンさん、カナダ在住の被爆者のサーロー節子さんなど女性たちが大活躍した。核兵器禁止条約の前文二〇段目に「女性と男性の双方による平等、完全かつ効果的な**参加**は、持続可能な平和及び安全の促進と達成にとって**不可欠な要素**である」と明記されていることの証明である。

核兵器禁止条約に関する各種世論調査では、「日本政府は条約に参加した方がよい」に半数以上が賛同している。ここに確信を持って「核兵器のない世界」をつくるため共に頑張りましょう。

（非核・いしかわ編集部）

◎十一月四日、山代温泉・葉渡莉で開かれた日本被団協・東海北陸ブロック講習会における講演要旨です。

◇平和憲法公布七二周年記念石川県民集会・講演要旨◇

朝鮮半島の非核化と平和への道筋

～日米核同盟と揺れる憲法～

ジャーナリスト　太田昌克

講師の太田昌克さん

（写真は主催者より提供）

朝鮮半島情勢と改憲リスク

なぜ朝鮮半島情勢がいま戦略的に重要なのかと言えば、南北分断の根源としての朝鮮戦争以来、幾多の困難を経たものの、朝鮮民族にとって半島の非核化が統一にとって避けられない課題であり、日本にとっても中国の軍事大国化の中で、その文脈に連なる改憲リスクと切り離せないものだからです。米国も元来、半島と台湾の万一の危機を恐れて、日本を前線基地のままにしておきたい、という動機を持っていることも底流にあります。

今年〝新年の辞〟で金正恩氏は「私の机の上には核のボタンが置いてある」とし、同時に「これからは経済政策だ」と語り、平昌五輪にも触れて「今こそ南北は和解に向かう時である」と述べました。これを契機に対話の流れが形成されました。

実は、その頃から南北は動いていたのです。南北政権の側近中の側近の二人のキーパーソン＝徐薫（ソフン）韓国国家情報院長官と金英哲（キムヨンチョル）朝鮮労働党統一戦線部長が、頻繁に接触していたのです。それは文在寅（ムンジェイン）大統領の意向が極めて大きかったこともありました。

というのは昨年来のレトリックの応酬、特に昨年九月の国連総会でトランプ米大統領は「北を完全に潰す」とか「今まで見たこともないような炎と怒りに見舞われるであろう」と露骨に威嚇し、それに対して北の外務大臣も「我々もいよいよ開発したミサイルに核弾頭を載せて太平洋に向けて撃たねばならない」と述べ、世界に強い緊張が走りました。ペンタゴンでも軍事的なオプションの検討が始まりました。文大統領はこの事態を本当に恐れ、インテリジェンス外交を水面下で始めたのです。それが二人のキーパーソンの接触なのです。

二月に平昌五輪が開かれ、金正恩氏の妹の金与正（キムヨジョン）氏も五輪外交を展開しました。二人の接触は、徐薫氏が仲人になる形で、米国のトップのポンペオ米中央情報局（ＣＩＡ）長官（現国務長官）を金英哲氏と引き会わせることに繋がりました。

関連ですが、ソウルにいた日本の外交官から聞いた話では、文在寅氏は前の大統領選挙で朴槿恵（パククネ）氏に敗れた際、在野に下り、再挑戦に備えて研鑽を積む日々を送っていたのです。その頃、駐韓の日本大使が文氏に挨拶に行った際、徐薫氏が隣に座っていたというのです。つまり徐氏は文大統領の側近中の側近だということが分かります。その人が最終的に、歴史的な〝六・一二シンガポール米朝首脳会談〟の立役者となるのです。通常の外交当局を通した形ではなく、二人のインテリジェンスのトップの断行でした。このことは米国の外交当局も蚊帳の外だったので、憤慨して辞任者を出すほどでした。

歴史的な米朝会談で何が合意されたかというと、①新しい米朝関係をつくる、②半島に平和のメカニズムを構築する、③完全な非核化をめざす、④米兵遺骨を返還する、ということでした。しかしその後、話は進んでいるとは言えません。この会談は歴史的ですが、実現のための工程表（ロードマップ）を詰められなかったのです。

トランプ外交はユニークさがあり、テタテ（通訳のみで記録係も同席しない一対一の会議）会談をよくやるのです。そのため米側の記録は不完全なのです。また普段「自分が決める」と豪語するトランプ氏は、米韓軍事演習の中止を突然言い出して、事前の打ち合わせでそれは扱わないとしていた役人たちを驚天動地に陥れたりしました。豊渓里（プンゲリ）核実験場は五月に残りの坑道や施設が爆破されましたが、これではまだ非核化には程遠く、寧辺（ニョンビョン）核施設を止めないとダメなのです。事務方の頭越しの〝独断専行〟が、現在の米政権内外の相互不信の底流にあるのです。

韓国政府関係者によると、文大統領はシンガポールにやって来るはずだったのですが、トランプ氏が乗り気でなかったため、米朝韓三か国首脳会

会談は幻に終わりました。

ネジレとジレンマ

このような中で、二つのネジレ現象が招来するジレンマを見ておきたいと思います。

ネジレその一は〝トランプ大統領ＶＳボルトン補佐官、マティス国防長官ら側近・官僚〟ということです。「トランプの周囲の人間は皆、このままではうまくいかないと思っている」（日米筋）なかで、ポンペオ氏は担がれて交渉をしているが、何とか成功させなければスケープゴート（生贄の山羊）にされかねないという状況で、何度も訪朝して金正恩氏に非核化の具体化（査察・検証等）を求めています。

非核化の条件付きながら、終戦宣言に前のめりのトランプ大統領は、戦争がない現状や休戦協定の深刻な違反が過去になかったことを明記した宣言案を考えているでしょう。しかし今や予断を許さない状況です。

もう一つは関係国のネジレで〝北朝鮮、中国、韓国、トランプＶＳ日本、米国〟ということです。

何とか成功させたい文政権は、終戦宣言と半島非核化の同時行動を求め、その成功を目指していました。それが九月の国連総会でのニューヨーク四巨頭会談（トランプ、金正恩、文在寅、習近平）と終戦宣言の発出なのです。しかしこれは幻に終わりました。

いま日本と米国の官僚機構は「最大限の圧力」を主張しますが、それはもう孤立状態です。もうそろそろ制裁の緩和を考えるべきだという声が強まっています。また九月に開城（ケソン）に造られた南北連絡事務所についても、米政府が今も難色を示しています。ここの分断も現実です。

ここに今後何が起きるのかというと、懐疑的な日本と米国の官僚機構を相手に、北朝鮮がどういう道筋の平和メカニズムの構築と半島非核化をすすめる工程表を合意するのか、現在その重要な交渉が続けられています。

〝解〟はどこに、そして日本は？

米朝首脳会談はウルトラＣ的なインテリジェンス外交で始まったのですが、内外の不信感が強く、前途多難です。「北朝鮮はやる気がない」とみる日米の安保エリートと官僚。「トランプの食い逃げ」と見る北朝鮮側。「騙された」はどちらも使う台詞になっています。

しかし今、**問われているのは〝このままこの平和へのプロセスを頓挫させていいのか〟**なのです。

朝鮮戦争後、米朝は長らく不信の関係が続き、騙し騙される歴史の繰り返しでした。蓄積した不信の連鎖を如何にほぐすかと問われても、容易に解答はありません。日韓の相互不信もそこに暗い影を落としています。

「トランプはやると言ったじゃないか」と怒り狂う金英哲。「きっとうまくいくから」との文在寅の言葉に乗せられたと思っているトランプ。トランプは「逆コース（軍事圧力路線）」のリスクに心揺れるものもあるでしょう。しかし、この流れを断ち切ってはいけないのです。

要諦は、半島非核化と恒久的な平和のメカニズムの構築の事前策定が合意できるかどうかでしょう。核計画の包括的申告と終戦宣言の同時行動で、非核化・平和プロセスの再起動をなんとしても図らねばなりません。申告の範囲とタイミングも重要です。この作業をできれば年内に完遂させ、同時に六者協議を再起動させることです。

コール西独元首相の格言**「神のマントが歴史の中に翻るとき、それに飛びついてつかまえなくてはならない」**が森千春（石川県出身）氏の新著に刻まれています。歴史的好機を捉えることの大切さを意味する〝神のマント〟はビスマルクの残した言葉だそうです。好機を捉えてこそ大きなことが成し遂げられるということでしょう。今がその時なのです。

◇　◇　◇

最後に改憲についてです。沖縄県知事選にあたり驚愕すべきことが起きました。それは公明党支持層の三割が玉城デニーさんに投票し、玉城勝利の集会の場に公明党の旗が翻ったのです。そういう事態のなかで本当に九条を壊す改憲発議をすると、中国・韓国は日本をどう見るでしょうか。

〝神のマント〟は中国 韓国 北朝鮮の皆さんと一緒に掴まねばならないのです。九条を壊す改憲をやりだしたらどうなるでしょうか。我々の安全保障の環境が脆弱になるだけです。

東南アジアのある外交官によれば、日本の政治家たちは「ノーマルネーション（普通の国）」とよく言うが、**日本が「スペシャルネーション」なのは九条があるからではないのか**、と言うのです。日本はモラルの高みに立ってリーダーシップを発揮すべきです。

（非核・いしかわ編集部）

◎一一月二日、石川県文教会館ホールで開かれた平和憲法公布七二周年記念石川県民集会での講演要旨です。

非核・平和のひろば

金沢市緑と花の課に要望
玉兎ヶ丘・平和の子ら像の標識を
原爆被災者友の会

一〇月一〇日、石川県原爆被災者友の会は金沢市都市整備局・緑と花の課に卯辰山玉兎ヶ丘の「平和の子ら像」の標識づくりを要請しました。この要請は、原爆犠牲者追悼碑「平和の子ら像」前で毎年夏に行なわれている原水爆禁止平和行進や〝反核・平和おりづる平和のつどい〟に初めて参加する人から「玉兎ヶ丘」「平和の子ら像」の所在地がわからず、迷ったという声が度々寄せられるためです。

平和の子ら像

被爆者友の会からは西本多美子会長、池田治夫事務局長が参加し、緑と花の課の矢嶋憲次主事、東野智仁主事と懇談しました。

・・・・・・・・・・

●「卯辰山・碑マップ～金沢の歴史探訪～」に平和の子ら像を掲載すること

金沢市が発行しているリーフレット「卯辰山・碑マップ」には卯辰山に建立されている顕彰碑・功労碑・歌碑・句碑・書碑など五六ヶ所が紹介されているが、平和の子ら像は紹介されていない。このリーフレットは金沢市緑と花の課ＨＰにも掲載されている。インターネットにより、卯辰山の碑を検索する世代もあるため、平和の子ら像を追加紹介してほしい。

（回答）「卯辰山・碑マップ」は金沢市観光交流課が二〇一三年三月に作成したもの。なぜ平和の子ら像が紹介されていないのかは不明。このリーフレットの改訂時期について観光交流課に照会する。

●「玉兎ヶ丘」「平和の子ら像」の所在地がわかるように標識を建てること

現在は（城下町みて歩き～望湖台コース）の道路上に「玉兎ヶ丘」の標識が二本あるが、分かりにくい場所にある。「玉兎ヶ丘」の所在地がわかるように望湖台バス停前と「玉兎ヶ丘」裏側の階段口にも標識を建ててほしい。また「平和の子ら像」入口の標識も要望する。

（回答）「玉兎ヶ丘」の標識づくりの要望については現地調査のうえ、改めて回答する。「平和の子ら像」入口の標識については、個別対応となり難しい。

・・・・・・・・・・

一一月六日、金沢市緑と花の課から西本会長に次の回答がありました。

●リーフレット「卯辰山・碑マップ」の改訂時期は未定だが、金沢市緑と花の課ＨＰへの追加掲載は速やかに対応する。

●以前に「玉兎ヶ丘」の標識は入口付近に建てられていたが、現在はなくなっている。今回要望された「望湖台バス停前の入口」と「裏側の階段口」の標識を来年度予算で作成する。

（報告　神田順一）

（編集部から）

今年で建立二〇年を迎えた「平和の子ら像」が、歴史を刻み、希望を託した〝平和を願うバトン〟として、子どもたちや次の世代に受け止められることを願っています。（か）

非核石川の会リレーエッセー
大切な人権

安田清平

十七世紀にイギリスのジョン・ロックの主張した国民主権、権力の分立、抵抗権などの国民主権の思想が広がり、アメリカの独立戦争やフランス革命に寄与した。十九世紀初め、ヨーロッパではオーストリア帝国が強大な力を持っていて、オーストリア、ハンガリーを中心に北はポーランド、南は北部イタリアやバルカン半島まで支配していた。

イタリア北部の農民達が独立運動を起こした時、鎮圧した司令官がラデツキー伯爵で、ウィーンに凱旋した時演奏された曲が、王制派のヨハン・シュトラウス一世の「ラデツキー行進曲」だった。共和制派であった息子のヨハン・シュトラウス二世は怒り親子関係は破綻した。ヨーロッパ中の共和制派の人達の批判を受け、失意のうちに翌年亡くなったという。

翻って日本では十九世紀の後半、明治維新で軍隊と産業は近代化されたかもしれないが、人権については、薩長土肥の下級武士が権力を奪取することで、王制（天皇制）の権力が拡大強化され、国民の人権は無視された。その結果が果てしない侵略戦争であ

り、三百十万人の日本人と二千万人のアジア人の死であった。内二百三十万人の日本の軍人、軍属の死も藤原彰氏の『餓死（うえじに）した英霊たち』に詳しいが、多くは「飢餓地獄の中での野垂れ死に」という残酷無比の歴史であった。

憲法九条の戦争否定は、全ての日本人が人間として希望を持って生きられる人権を尊重するのに不可欠と思う。憲法よりアメリカの指示、命令が上に立つという異常な主権国家日本は、特に沖縄県を中心として人権は下に置かれ、唯一の戦争被爆国が核戦争を支持するという大きな矛盾の下に置かれている。

我々の憲法の第十一条から十四条に至る人権条項を何よりも大切にしていきたい。そして第九十七条「・・・日本国民に保障する基本的人権は・・現在及び将来の国民に対し、侵すことのできない永久の権利として信託されたものである」を肝に銘じたい。それが憲法九条を守る要でもある。

自分と周りの命を大切に！
受動喫煙防止教室を続ける

―学校薬剤師の一人として―

安田幸子

私は一〇年位、市内の担当中学校一年生に先生方と協力し受動喫煙防止教室を続けている。

事前に生徒にアンケートを実施していただき、養護教諭がデータをまとめて下さるので、結果と結びつけてパワーポイントを用いて話を進める。

タバコの害については小学校で学んでいるが、受動喫煙についての理解者は二五％程度。タバコの害のおさらいの後、たばこを吸わない周りの人が望まないのに受動的に喫煙したと同じになる。しかもタバコの先端から出る副流煙の害が大きいこと、この煙はＰＭ二・五測定装置で測ったデータで一七ｍ以上の所まで届くこと、吸い終わった喫煙者の吐く呼気や髪の毛洋服にも長期間残りサードハンドスモークと呼ばれていることなど説明します。日本は「分煙」を認めているのは問題で喫煙室はタバコ対策にはならないことを理解してもらいます。

最近は加熱式タバコ（電子タバコ）が煙を出さないので安全などと誤った宣伝がされています。このタバコに対する考え方は国により差があるため、今年一〇月ＷＨＯタバコ規制枠組み条約締約国会議が開かれ、この規制が焦点になり具体的な七項目が定められたことも私自身理解が深まり伝えることができました。

学年により差がありますが、生徒の五〇％前後の家族に喫煙者がいるのが現実です。家族がタバコを吸っていることに生徒たちは心を痛めています。「止めてほしいと思っている」と感想文に書いてくれます。「ニコチン依存症」という病気なので、保険診療で治療が受けられることを伝えます。

日本の喫煙率はＪＴ調査で今年は男性二七・八％、女性八・七％、平均一七・九％まで下がりましたが、生徒たちの父親世代は三三％を母親世代は一〇％を超えています。

最後にどんなに勧められてもはっきり断ること。「タバコをやめるのはとても難しい。けれど、最初から吸わないことは誰でも出来る簡単なこと」（宮崎県小児科野田先生）を伝えます。自分と周りの方の命を大切にする人に育って欲しいと心から願い伝える歩みを続けています。

詩人会議かなざわ「独標」より
星たちの動き

尾川義雄

詩の集まりに顔を出さないまま
年月が経っていく
詩作と仲たがいした訳ではないのだが…
星空のもとで一度ゆっくり話をしたい
核兵器ゼロの話を膝づめでやろう
星は小さな集まりが大きくなることを
願っているにちがいない
今年８月６日には
小さな星たちが大勢集まるだろう
従来にはない非核化の動きが
今　現れている
これを稔らせなければならない

《編集室より》

◎原子力規制委員会は七日、首都圏唯一の原発である日本原子力発電（原電）の東海第二原発（茨城県東海村）について最長二〇年の運転延長を認めました。福島事故後に四〇年超の運転が認められるのは四基目。政府は原発事故を踏まえ、運転期間を原則四〇年に制限し、延長は「例外中の例外」のはずでしたが、さらにルールの骨抜きがすすみました。九日現在九基、九州電力玄海原発三・四号機と川内原発一・二号機、関西電力大飯原発三・四号機と高浜三・四号機、四国電力伊方三号機が稼働しています。再生可能エネルギーを意図的に除外して。（中）

シリーズ 石川の地域点描 27

フォトグラファー　中西 優

一一月に入り、平野部でも紅葉が見られるようになってきました。金沢市内でも色づきが早いことで知られる金沢市役所前の楓通りでは、この時期に合わせてライトアップも行われ、仕事帰りの人たちやドライバーたちが足をとめて写真を撮っている姿も見られます。

また近くの香林坊地区ではクリスマスシーズンに向けてイルミネーションが施される「香林坊ツリーファンタジー」も始まりました。

気がつけば二〇一八年も残すところ二か月を切っています。

紅葉がライトアップされている金沢市役所前通り

絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班　竹味恭子

イルミネーションが始まった金沢市香林坊

非核・平和の掲示板

月	日	曜	時	内　容	
11	25	日	14:00	原発問題住民運動石川県連絡センター結成30周年記念のつどい／記念講演・立石雅昭さん	金沢市青草町・近江町交流プラザ4階集会室
	28	水	12:50	81回 怒りの昼デモ	金沢市香林坊・いしかわ四高記念公園教育会館前口
12	2	日	14:00	年金裁判を支援する会総会／記念講演　田中明彦さん	金沢市京町・石川勤医協会館3階会議室
	6	木	12:30	核兵器廃絶6・9署名行動	金沢市武蔵町・Mza前
	8	土	13:30	12・8平和を守る集い　ー太平洋戦争開始77周年から何を学ぶかー	金沢市下本多町・金沢歌劇座本館2階会議室
	8	土	14:00	不戦の集い2018年　「板門店宣言」など朗読と話し合い	金沢市武蔵町・ITプラザ武蔵第2研修室
	8	土	14:00	南京を証言する会	金沢市香林坊・石川県教育会館
	8	土	14:00	メディア総合研究所／ほくりくメディアシンポジウム「激論　地域でがんばる放送局とは　ローカル放送の未来を問う」	金沢市石引4丁目・本多の森第3会議室
	9	日	14:30	映画「明日へ　戦争は罪悪である」上映会／2回目は17:00～	金沢市安江町・金沢別院真宗会館ホール
	12	水	12:50	82回 怒りの昼デモ	金沢市香林坊・いしかわ四高記念公園教育会館前口
	15	土	14:00	いしかわ自治体問題研究会総会／記念講演　中山徹さん	金沢市香林坊・石川県教育会館2階会議室
	23	日	14:00	医療・福祉問題研究会「医療・福祉と人権ー地域からの発信」出版記念シンポジウム	金沢市堀川新町・ホテル金沢
	26	水	12:50	83回 怒りの昼デモ	金沢市香林坊・いしかわ四高記念公園教育会館前口
	26	水	13:00	広島・折り鶴の少女の兄　佐々木雅弘さん講演会	加賀市片山津温泉・湖畔の宿「森本」
1	1	火	10:00	核兵器廃絶元旦署名行動	金沢市尾山町・尾山神社前
	9	水	12:30	核兵　器廃絶署名6・9行動	金沢市武蔵町・Mza前
	27	日	13:00	北陸原水協学校　講演内容は未定	金沢市三社町・石川県女性センター
2	27（水）～3/1（金）			2019年3・1ビキニデー	静岡県静岡市・焼津市

＊祝日は休日とします　＊毎週金曜日18：30どいね原発アピール行動 金沢駅兼六園口　＊毎月15日石川県沖縄連帯デー12：00

＊会報「非核・いしかわ」のサポート会員を募集中。年間購読料は1，500円です。ご紹介をお願いします。